

(イノシシを中心とした)

豚熱等に係る野生動物対策について



畜産研究部門 動物行動管理研究領域
動物行動管理グループ 上級研究員 平田 滋樹

野生動物における越境性動物疾病の留意点



越境性動物疾病とは・・・

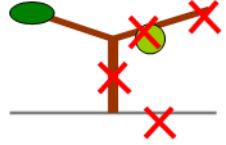
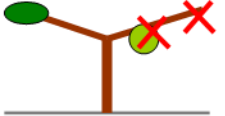
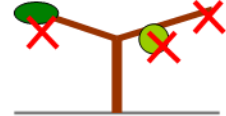
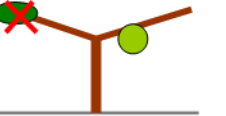
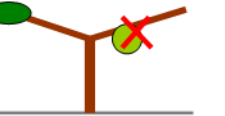
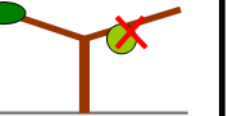
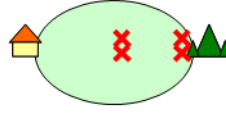
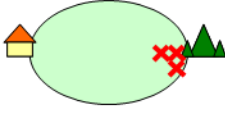
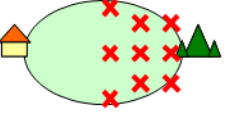
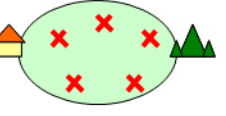
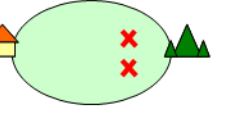
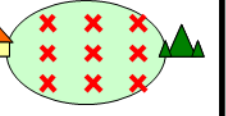
国際連合食料農業機構（FAO）などの国際機関による定義では、「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易、および食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」

【主な留意点】

- 対象となる、関係する動物種の生態的特徴への理解
⇒同種か近縁種か、生態系における位置づけなどの差異
- 対象種における有効な基本的対策手法への理解
⇒総合的対策の必要性、対策の優先順位付け、実施状況等
- 文化的な背景も含む国や地域ごとの状況への理解
⇒地形や環境に適した手法の選択やアレンジ、法令や制度
- 効果検証の必要性和PDCAサイクルにおける注意
⇒緊急対応の必要性和状況に合わせた対応の重要性

▶ **概念的な話を駆け足でさせていただきます！！**

鳥獣別の被害発生の特徴(果樹園の事例)

鳥獣の種類	イノシシ	ツキノワグマ	ニホンザル	ニホンジカ	アライグマ・タヌキ アナグマ・テン等	カラス類
主な被害	掘起し、枝折り、 樹皮剥ぎ、食害 	食害、枝折り等 	食害、落果、 枝折り等 	葉の食害等 (特に新芽) 	食害等 	食害、落果等 
被害を受けやすい場所の 傾向	山際周辺や中心部 	山際周辺 	山際周辺を中心に 広範囲 	樹園地内で広範囲 	山際周辺 	樹園地内で広範囲 
被害のおよぶ範囲の傾向	一定範囲に集中	特定の果樹木に 集中	多くの果樹木で 分散的	多くの果樹木で 分散的	一定範囲に集中	多くの果樹木で 分散的
食痕等の被害の特徴	マルチや敷き藁等 の掘起しが発生し やすい 枝に噛み跡や泥等 の付着が見られる ことがある	樹上に折られた枝 や果実袋が集めて 置かれる (クマ棚) 樹皮に爪痕が残る ことがある	折られた小枝や葉 が散乱する 被害は日中のみ 発生する	新芽が選択的に食 べられることが多い	〈アライグマ〉 枝や葉が付いたま まの状態で齧られ た果実が果樹園内 に残ることが多い (樹上に残る場合も ある)	被害は日中のみ 発生する
果実や果実袋の状態の 傾向	袋が地面に散乱、 果実は大部分が食 べられることが多い	袋が樹上に集めて 置かれ、果実はほ とんどの部分が食 べられる	袋が地面に散乱、 果実は数口齧った だけで捨てられるこ とが多い 果実を樹園地の外 に持ち出して、食べ ることがある	果実に被害が出る ことはあまりない	袋が上手に破られ ることが多い 〈タヌキ等〉 袋は雑に破られる 果実を樹園地の外 に持ち出して、食べ ることがある	袋が付いた状態の 果実が樹上に残る ことが多い 果実はくり抜いたよ うに食べられる (果皮の縁にV字型 の跡が残る)

▶ 動物種ごとの生態によって被害発生状況等が異なる

野生動物における越境性動物疾病の留意点



群構成：血縁関係のある母系集団
（オス亜成獣の一時的な集団）
オス成獣は単独行動

食性：主に植物を中心とした雑食性
嗜好性がある（水稻、トウモロコシ、堅果類）

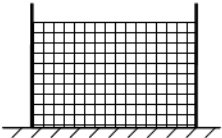
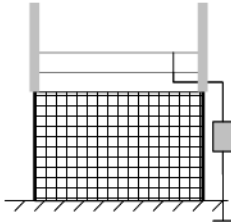
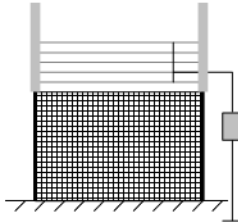
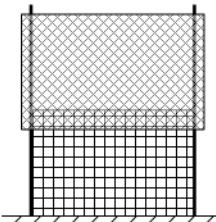
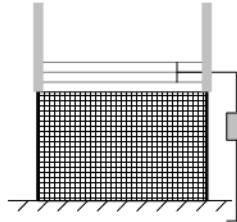
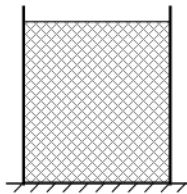
繁殖：年1回、4～5頭の子を出産
初期死亡率が高く、平均年齢は1歳前後

行動域：決まった行動域を持つ（約1km²程度）
ナワバリは持たない

その他：イノシシを家畜化したものが豚（同種）

▶ **生態を理解して効果的な対策を採ることが重要**

鳥獣別の基本的対策手法

鳥獣の種類	イノシシ	ツキノワグマ	ニホンザル	ニホンジカ	アライグマ・タヌキ アナグマ・テン等	カラス類
樹園地への侵入方法 (侵入防止柵がある場合)	潜り込み、すり抜け、 跳び越え等	柵を登る、 近くの木や吊り棚 を伝わる等	柵を登る、 近くの木や吊り棚 を伝わる等	すり抜け、跳び越 え等	柵を登る、すり抜け、 潜り込み、木や吊り 棚を伝わる等 (アナグマは穴を 掘ることがある)	飛来、側面(地面) からの飛込み
効果の高い侵入防止柵、 侵入防止方法の例 (図はシシ垣くん等の例)	ワイヤーメッシュ柵、 金網柵、電気柵 	金属製柵+電気柵 	電気ネット柵や 金属柵+電気柵 	金属線入りネット柵 金属製柵+ネット 	ネット柵+電気柵 	ネット、テグス張り 
電気柵の電線の間隔の例 (上部取り付けも含む)	20cm以下	20cm以下	5cm程度	20cm程度	5cm程度	ネットの場合 20cm程度 (側面は10cm)
ワイヤーメッシュの格子の 大きさの例	15cm以下		10cm以下		少なくとも7.5cm 以下	
その他の効果的な対策	周辺環境の改善 (農作物残渣・放任 果樹等の処理、 緩衝帯) 個体数調整	周辺環境の改善 (放任果樹・農作物 残渣等の処理、 緩衝帯) (個体数調整)	周辺環境の改善 (放任果樹・農作物 残渣等の処理、 緩衝帯) 銃や花火等による 積極的な追払い (個体数調整)	周辺環境の改善 (農作物残渣等の 処理等、緩衝帯→ なるべく草地を作ら ない) 個体数調整	周辺環境の改善 (放任果樹・農作物 残渣等の処理) 〈アライグマ〉 根絶を目指した 徹底捕獲	周辺環境の改善 (農作物残渣・放任 果樹等の処理) 銃や大型捕獲檻を 用いた個体数調整 銃や花火等による 積極的な追払い

▶ 基本的な被害対策手法は類似している(総合的対策)

総合的な被害対策の必要性

① 侵入防止

- ・ WM柵など防護柵の設置



② 生息環境整備

- ・ 誘引物除去
(野菜クズや放任果樹の処分)
- ・ 緩衝帯整備
(草刈りやタケの伐採、強度間伐)
- ・ 家畜放牧による省力的草地管理



③ 個体数調整・・・ジビエ等利用

- ・ 成獣、加害個体を中心とした捕獲
- ・ 捕獲隊などの捕獲体制整備



▶ 被害の現状と動物の生態的特徴に基づいた対策が重要

欧州の土地利用(農村部)の事例



▶ 森林率が大きく異なる（日本68%、欧州20%程度）